

桜井市社会保障推進協議会の総会が開催されました

10月17日（木）桜井市まほろばセンターで、桜井市社会保障推進協議会総会が開催されました。

朝日新聞大阪本社記者の中塚久美子さんが、「貧困のなかでおとなになる子どもたち」のテーマで記念講演

中塚さんは、家庭の貧困や学びの格差による高校生中退や、定時制志願急増など、子どもの貧困関連報道で、2010年「貧困ジャーナリズム賞」（反貧困ネットワーク主催）受賞。2012年10月には著書「貧困のなかでおとなになる」を出版されています。

中塚さんは講演で、子どもの貧困が見える数字として、●子どもの貧困率15.7%＝40人学級に6～7人、●虐待死する子どもの数（10年度）51人（心中以外）＝週に1人の割合、●高校中退者の数（10年度）53,245人（1.7%）＝5日に1校、高校がまるごとなくなるのと同じ（1学年6クラス40人学級計算）という数字をあげました。

困難な事情を抱えた家に生まれた子と、そうでない子に、学力、健康、意欲に大きな格差が生まれていること。貧困が社会問題として認識されず、自己責任や親批判だけで解決できるのか。子どもの貧困を放置すると、社会はどうなるのか？

たとえば、生活保護受給の母子家庭の4割が母親も生保過程で育った。母親が精神疾患の世帯は約3割。低学歴、10代出産、DV被害、子どもが病気。

健康格差でも貧困層の子は非貧困層の子に比べ、健康を害して入院する確率が最大1.3倍、住環境や食事の栄養バランスが悪いことなどが原因とみられることなど報告しました。

中塚さんは著書で「親、学校、社会の使命は、次世代を担うことのできる成熟した市民を育てること、成熟した市民を育てるにあたって、子ども期の貧困は大きな障害になります。これから未来を切り開き、社会に参加しようという子どもの権利は、経済力と関係なく保障されなければならないはずです」と記しています。

今、全国各地で様々な学習や・生活支援がおこなわれていることを紹介。【愛知県半田市】日本福祉大学の学生が市に学習会を提案。市が応じ、子どもの募集に協力。【高知市】診療所が中学校と協力。診療所2階で大学生や職員がボランティアで教える。【相模原市】NPO法人に委託。専門スタッフや行政職員らが勉強を教える。【京都】NPO「山科醍醐こどものひろば」中学生対象に学習支援、夕食、遊び、風呂の提供、等。

日本でも今年の6月に「子どもの貧困対策法」が制定された。次の焦点は大

綱の中身だが、「医療」については言及なし、「貧困率」の削減数値目標は掲げられず。ただ、貧困率の改善、生活保護家庭の子の高校進学率改善は盛り込まれた。「国の義務」の次は、「子どもの貧困は許さない」という私たちの姿勢、と最後に講演を締めくくられました。

桜井市でも3年前の3月3日に、両親が5歳の長男に食事を与えず餓死をさせるという、痛ましい事件が起こりました。虐待の検証は「奈良県児童虐待対策検討会結果報告書」で明らかにしていますが、単身用ワンルームマンションに一家4人が暮らしていたという生活環境を見ると、事件の根底には経済的に不安定なこともあったのではと推測できます。

今、長期にわたる不況や、正規と非正規、サービス残業、賃金の男女間の差別や格差など、国民の所得が減り続けています。政治の力で人間らしい暮らしと働き方を保障する「ルール」をつくっていくことが必要ではないでしょうか。